

英語の中のラテン語源単語(21)

－中学生以上の英語学習者のために

19.09.01

所内ラテン語研究会

1 Casus fortuitus non est supponendus.

この文は、「偶然の出来事は、想定されるべきではない(期待されるべきではない)」と解釈することができます。中文では、“偶然之事可遇而不可求”と訳すことができます。

2 男性名詞 casus は、第 3 変化動詞 cadere (to fall 等) の完了受動分詞 casus と同形であり、case, event, occasion, opportunity 等を意味します。これらの語に関連する英単語はきわめて多いので、主要なものを紹介します。

- (1) cadence, decadence, decadent
- (2) accident, accidental
- (3) deciduous
- (4) incidence, incident, incidental
- (5) coincide, coincidence, coincident
- (6) occident, occidental
- (7) cascade
- (8) case (文法用語「格」の意味もあります)
- (9) casual, casualty
- (10) occasion, occasional
- (11) chance
- (12) chute
- (13) decay
- (14) escheat
- (15) recidivism

なお、cadere と混同しやすいラテン語第 3 変化動詞として caedere (to cut, strike, kill 等) がありますが、この語に関連する英単語には次のものが含まれます。

- (1) abscise, abscission
- (2) circumcise, circumcision
- (3) concise, concision
- (4) decide, decision, decisive
- (5) excise (削る、切除する等), excision
- (6) incise, incision, incisive

- (7) precise, precision
- (8) recision
- (9) cement
- (10) chisel
- (11) scissors
- (12) -cide, fratricide, insecticide, genocide, homicide, matricide, patricide, pesticide, suicide

3 形容詞 fortuitus は、女性名詞 fors (chance, luck 等) に由来し、accidental, casual, fortuitous 等を意味します。fors に関連する英単語は、次のとおりです。

- (1) fortuitous, fortuity
- (2) fortune, fortunate, fortunately
- (3) misfortune
- (4) unfortunate, unfortunately

4 supponendus は、第 3 変化動詞 supponere の動形容詞です。後者は sup (sub) + ponere により構成され、原義は put, place or lay sth under sth 等となりますが、転じて「想定する」、「仮定する」となります。第 3 変化動詞 ponere (put, place or lay 等) の完了受動分詞は positus ですので、supposition 及び suppose とつながります(なお、ponere の不定法、完了、能動相は posuisse です)。そして、これと関連する英単語には、次のものがあります。

- (1) posit
- (2) position
- (3) positive
- (4) post (地位、郵便等)
- (5) posture
- (6) apposite, apposition
- (7) component
- (8) compose, composition, composite, composure
- (9) depone
- (10) deponent
- (11) deposit
- (12) depot
- (13) dispose, disposal, disposition
- (14) exponent

- (15) expose, exposition
- (16) impose, imposition
- (17) interpose
- (18) oppose, opposite, opposition
- (19) preposition
- (20) propose, proposal, proposition
- (21) purpose
- (22) reposit, repository
- (23) suppose, supposition
- (24) transpose, transposition
- (25) compound (合成する等), expound

なお、ponere は印欧語根 apo- 又は ap- (off, away) から分出した語ですが、当該語根からはラテン語 ab, post 及びギリシャ語 apo も分出しています。そして、次の英単語は、ラテン語と関係なく当該語根にたどりつける語です。

- (1) of
- (2) off
- (3) ebb
- (4) ablaut
- (5) abaft
- (6) after
- (7) awkward

5 fors はラテン語不規則動詞 ferre (to bear, bring, carry 等) に由来する語ですが、ferre に関連する英単語はきわめて多いので主なものを取り上げます。

- (1) fertile, fertility
- (2) fertilize, fertilizer, fertilization
- (3) circumference, circumferential
- (4) confer, conference, conferment
- (5) defer, deferred, deferment
- (6) defer, deference, deferential
- (7) differ, difference, different, differentia, differential, differentiate, differentiation
- (8) efferent
- (9) indifference, indifferent
- (10) infer, inference, inferential
- (11) offer

(12) prefer, preference, preferential, preferment

(13) proffer

(14) refer, reference

(15) suffer, sufferance, insufferable

(16) transfer, transference

(17) vociferate(vox + ferre)

ところで、ferre は下記 7 で言及する印欧語根から分出した語ですが、次の英単語はラテン語と関係なく当該語根にたどりつけるものです。

(1) bear (to carry 等), forbear

(2) burden (負担等)

(3) birth

(4) bring

6 ferre の完了受動分詞 (carried 等) は不規則な形をしており、latus, lata, latum となります。これに関連する英単語も多くあるので、主なものを掲げます。

(1) ablate, ablation, ablative

(2) allative

(3) collate, collation

(4) dilatory

(5) elate, elation

(6) legislate, legislature, legislation, legislative

(7) oblate, prolate

(8) relate, relation

(9) superlative

(10) translate, translation

そして、次の英単語は、latus が分出した印欧語根 *tela-* (to lift, support, weigh) から別に分出したその他のラテン語に関連のある語です。

(1) tolerate

(2) talion

(3) retaliate

(4) extol

また、英単語 talent, toll (使用料等), philately 等は、上記語根から分出したギリシャ語に由来する語です。

7 ところで、ferre は想定上の (imaginary) 印欧語根 *bher-¹* (to carry) にたど

りつくものであり、この **bher-1** からはギリシャ単語 **pherein** (英単語 **euphoria, metaphor, periphery** 等は、このギリシャ単語に関連のある語です) や英単語 **bear** も出ています。印欧語族に含まれる各言語の特定の子音には規則的な関係が見られるという法則があり、これをグリムの法則といいます。この法則を学べば、印欧語族相互間の関係も明らかになり、また英単語の語源に対する理解もより深まります。グリムの法則について興味のある方は、このシリーズの冒頭部分 5 参考文献において引用した「英語の語源辞典」p83 以下及び「法律英語の基礎知識」p247 以下を参照して下さい。

8 ロシア語コーナー

上記 1 中のラテン語文をロシア語で表わすと、次のようになります。

Casus fortuitus non est supponendus - Нельзя ожидать случайного события.

9 初歩的数学用語コーナー

(1) 分数 **fraction**

(2) 真分数 **proper fraction**

proper は、ラテン語形容詞 **proprius** (**one's own, special, particular** 等) から派生した語です。

(3) 仮分数 **improper fraction**

(4) 帯分数 **mixed number**

mixed は、ラテン語第 2 変化動詞 **miscere** (**to mingle** 等) に由来する語です。

(5) 連分数 **continued fraction**

continued は、ラテン語第 2 変化動詞 **continere** (**to hold together** 等) から派生した形容詞 **continuus** (**hanging together** 等) に由来する語です。

10 英単語 **fraction** はラテン語 **frangere** (**to break** 等) の完了受動分詞 **fractus** から派生した語であり、これらのラテン語に関連する英単語には次のものが含まれます。

(1) **fractional**

(2) **fracture**

(3) **fragile, fragility**

(4) **fragment, fragmentary, fragmentation**

(5) **frail** (虚弱な、ひ弱な等), **frailty**

(6) **frangible, infrangible**

- (7) anfractuous
- (8) diffract, diffraction
- (9) infract, infraction
- (10) infringe, infringement
- (11) refract, refraction, refractory
- (12) refrain (反復句等)
- (13) refringent
- (14) suffrage

この語は、frangere が分出した印欧語根 bhreg- (to break) から別に分出したラテン語 suffragari (to vote for 等) に由来するものです。そして、英単語 break, breach 等は、frangere と同語族語の関係にあります。

11 上記 9(4)において引用したラテン語動詞 miscere (完了受動分詞は mixtus) に関連する英単語には、次のものが含まれます。

- (1) meddle
- (2) medley
- (3) melee
- (4) miscellaneous
- (5) miscible
- (6) mix
- (7) mixture
- (8) mustang
- (9) admix
- (10) commix
- (11) immix
- (12) miscegenation
- (13) pell-mell
- (14) promiscuous